

**平成29年度第1回
福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生有識者会議
議事概要**

【日時】

平成29年7月24日(月)午後1時30分～午後4時00分

【場所】

ハピネスふくちやま 会議室1

【出席者】

別紙のとおり

【事務局】

大橋経営戦略課長、伊達

【会議の概要】

- 1 開会
- 2 あいさつ(森田市長公室理事)
- 3 委員紹介・委嘱状交付
- 4 平成28年度実施事業の評価に関する意見
- 5 意見交換
事務局から、「アクションプラン平成28年度実施事業の検証シート」の各事業の実施概要について説明後、各委員から意見をいただいた。

【主な意見】

(委員)

- ・全体的には、どの事業も福知山市の活性化には必要であると考えている。
- ・今、効果が小さくとも、漫然と繰り返すのではなく、課題を関係者と話して、やり方を変えていくことで効果が出てくる。
- ・夜久野高原まつりは、旧夜久野町内だけでなく、市内全体に広げていく必要があるのでは。

(委員)

- ・市が変わっているという姿が伝わってこない。本委員会にも市長が見えられたこともない。予算がなぜ削られたのかという理由も伝わってこない。市政の姿が市民に見えるようにしてほしい。

(委員)

- ・地方創生の交付金があたっている事業以外でも、まちづくりの施策があるのに、今回の

説明が、地方創生の交付金のあたる事業だけになっていることに違和感がある。

- ・福祉人材は不足しており、今後の市の産業としてのポテンシャルがあるはずであり、その辺りも総合戦略に位置づけられると良いのでは。

(委員)

- ・福知山公立大学については、意味のある使い方をする必要がある。
- ・移住施策等のネット等での情報発信は、交付金がある期間だけになることなく、ずっと継続していくことが大切である。
- ・交付金により単発のイベントを行うと、交付金が無くなったらイベントも終わる傾向にあり、それではもったいない。もともとあるイベントへの追加・拡充という形で交付金を活用するという考え方があっても良いのでは。

(委員)

- ・観光入込客数等のK P Iについては達成されており、全体として一定の成果があったと言えるのではないかと。
- ・補助金を受けて事業を実施する実施団体の自立という面では、課題が多そうである。
- ・イベント等の一時的な事業は、地方創生に関してあまり効果的でないのでは。
- ・夜久野の漆、移住・定住、起業支援については、しっかり予算を付けて活性化していくべきと感じた。
- ・イベントの集客に関しては民間の方の意見を取り入れると良いのでは。そのことが実施団体の自立にもつながる。

(委員)

- ・事業によっては、すぐに効果が出るものと出ないものがあり、そこは理解しなくてはならない。
- ・移住・定住促進事業については、K P Iの実績は目標を大きく上回っているにも関わらず、C（効果があった）と控えめな評価である。評価の基準がわかりにくい。
- ・特に力を入れるものとそうでないもの、というように濃淡を付けて事業実施する方が良いのでは。

(事務局)

- ・その他の施策による増加分もあるとの考えから、Cの評価となっている。

(委員)

- ・委員の立場からすると各課の評価の基準がわかりづらい。
- ・デザイン列車の乗客数は増加数を目標としていたが、結果は3万4千人の減となっている。このことから事業の効果を維持することは難しいと言えるが、そこを維持することが大切である。

(事務局)

- ・台風の影響と、丹鉄による企画切符の減が大きく影響したと聞いている。

(委員)

- ・ふるさと就職おうえん事業について。最近はずいぶん数の企業面接会が開かれており、そこで7市町の合同企業面接会を開いても中々厳しいのではないかと。また、平成29年度は5月に開催されたが、6月1日前なので、面接ができず説明会のみであり、その効果も疑問である。保護者に対する説明会等の工夫をしてがんばって欲しい。

(委員)

- ・イベント型の事業は、同じことの繰り返しではジリ貧になる。
- ・人材育成などは短期では効果の出にくい事業であるが、短期でなく長期の視点をもって力を入れていただきたい。

(委員)

- ・数値目標というものが表に出てきているが、それだけに縛られてはダメだと思う。
- ・移住・定住促進事業の課題として、本市を知っていただく努力が必要と書いてあるが、京都駅の旅ナビのコーナーに、福知山市のパンフが置いてない。こうした所も問題では。
- ・養父市などでは、お試し住宅の取組みをされている。福知山でも企画しては。
- ・起業おうえん事業については、起業後の後追い調査を行うことが大切である。
- ・ゆらのガーデン管理事業について。ゆらのガーデンへの観光客をどう他の場所へ回遊させるのか考えられているのか。
- ・鉄道ポップランド運営事業について。中心市街地の活性化に寄与していると書いてあるが、何か数値で押さえられているのか。そういった数値により評価されたい。

(事務局)

- ・担当課を通じて設置を呼びかけたい。
- ・現在、福知山市でも三和などで取組みを始めている。
- ・担当課に調査をするように呼びかけているところである。
- ・広小路へつながる道路整備等により中心市街地等へ誘導することを考えている。
- ・来館者数は把握しているが、周辺への波及効果を示す数値は把握できていない。

(委員)

- ・観光入込客1人あたりといった数値目標もあっていいのでは。
- ・全体にイベントにお金がかかっている印象。地場産業や福祉、観光のための人材育成にお金を使ってほしい。
- ・インバウンドの取組みをする中では、地元の受け入れ態勢を整えなければならない。
- ・まだ事業が始まったばかりなのに「効果あり」となっているところを見ると、担当課の評価は甘いなと感じた。
⇒国の補助金の性格上、短期間での効果を求められていることから、こういった表現になっているという部分もある。

(委員)

- ・会議では毎回意見を述べさせているが、反映されていないと感じている。
- ・補助金の出ているイベントに関しては、その取組みの熱量が足りないと感じる。地道でもできているイベントについては、実施主体に渡してしまい、補助金は無くしてしまうというやり方もあるのではないか。市としての関与のあり方を考えられたい。
- ・ふるさと就職の取組は大事であると思う。高校生のキャリア教育の中に市が入っていないのかなと感じた。
- ・会議の進め方(事務局からの説明、委員の発言の順)について、前回も言わせていただいたが変わりがなかった。一考をお願いしたい。

(オブザーバー)

- ・委員の皆様からも指摘があったように、検討シートの成果が情緒的な表現になっているので、もう少し具体的な記述の方がよい。
- ・平成29年度以降の予定の欄では、前年度の課題に対してどう取り組んで行くのかがわ

かる形で記述した方がよい。

- 京都府では目標に対する達成率を示しているので参考にしては。
- 総合戦略の全体像が見えれば、委員ももう少し評価しやすくなるのでは。